

八重山毎日新聞

THE YAEYAMA MAINICHI SHIMBUN

11月22日 木曜日
2012年(平成24年)

発行所
株式会社 八重山毎日新聞
〒907-0004 沖縄県石垣市宇登野城614

私は、工芸とは人ともに進歩していくものだと思っています。工芸の今と未来を考えていく上で、今を表現し、近未来を予感させているのか、いつも問いかけています。

これまでの工芸品はすでに何らかの地位や知名度を獲得したもので、すでにある評価に安住することで生活してきました。それゆえ、それを変化させる行為は批判的となり、自由な発想ができなくなり、未来への歩が止まったように思います。

また一部の工芸品で地域文化や価値を代弁しようとするあまり、すべての人を満足させようとしたことは、もともと無理がありました。そのことがかえって工芸の未来の可能性や発展する力を失速させた結果にもなりました。

しかしこれからは別の次元で未来の工芸とは何かを考えることは、新しいニーズに対応え、もう一度物作りの原点に立ち戻り再度問いかけるきっかけを作り、今後の工芸の可能

性や未来のあり方を考える上で良い機会だと思っています。工芸は地域の中だけの表現ではなく、異なった個性を持つ日本以外の文化とも交流できるものです。国際的にもより高い価値や意味を持たせることが、今

第3回石垣島やきもの祭り

焼き物文化の芽生えにご支援を

金子晴彦
第3回石垣島やきもの祭り実行委員会会長

用する工芸品として再生、役割を担い、やがて八重山ブランドになっていくと信じております。

現在、八重山には多種多様な焼き物が存在します。いろいろな焼き物の存在が八重山らしさであり、また見る人を楽しませる独特の文化として発展していきます。それは固有の文化を持つ八重山らしさになり、その違いが他の窯業地と共存共栄していく道にもなっています。

この八重山で違ふ価値を認め、存続させることはやがて八重山から未来のピカソのような天才児を生むことになり、この可能性を育んでいかなければならない時と考えます。

その礎となる私たちはオンラインワンであり続け、安易にはやっているものをまねするのではなく、子どもたちには自らの力で何かを作り出すそんな物作りの原点を伝えていけたらと思っています。いま、工芸品離れがひどく、全国の窯業地

では閉鎖する工房が後を絶ちません。石垣島には現在26軒の工房や窯元があり、やっと文化が芽生え始めました。

この陶芸家たちが存続し、八重山の魅力になるまでには皆さまのご支援がなければなりません。食卓の食器、贈答品、お土産などに焼き物を購入していただけると幸いです。合わせて竹富町、与那国町の工房支援もお願い致します。

今回のやきもの祭りでも体験陶芸や作陶実演など楽しみが盛りだくさんです。またチャープルボックスではいろいろな工房の焼き物が入っており、破格で購入できます。早い者勝ちなのでこのチャンスを見逃さないよう、皆さまのご来場を工房、窯元一同お待ちしております。

日時
*11月24日(土)
午前10時～午後6時
*25日(日)
午前10時～午後5時
場所
石垣市民会館中ホール